

# 胎内型ツーリズム推進協議会 301人会

## 連絡先

住 所	新潟県胎内市夏井1191-1
電話番号	0254-48-3321
FAX 番号	0254-48-3323

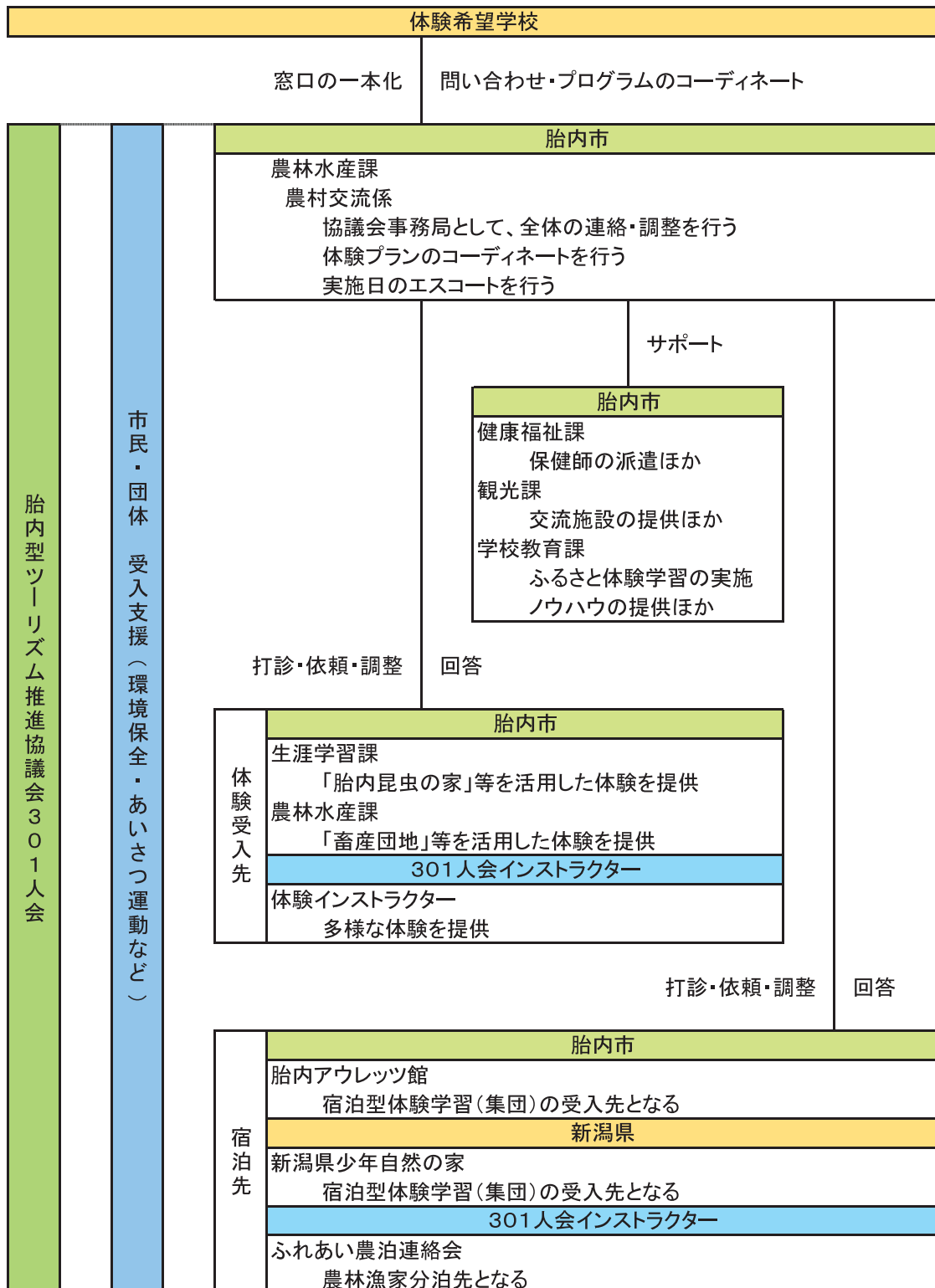
## 受入体制

(1) 構成メンバー（事務局、構成員（団体・個人）等）

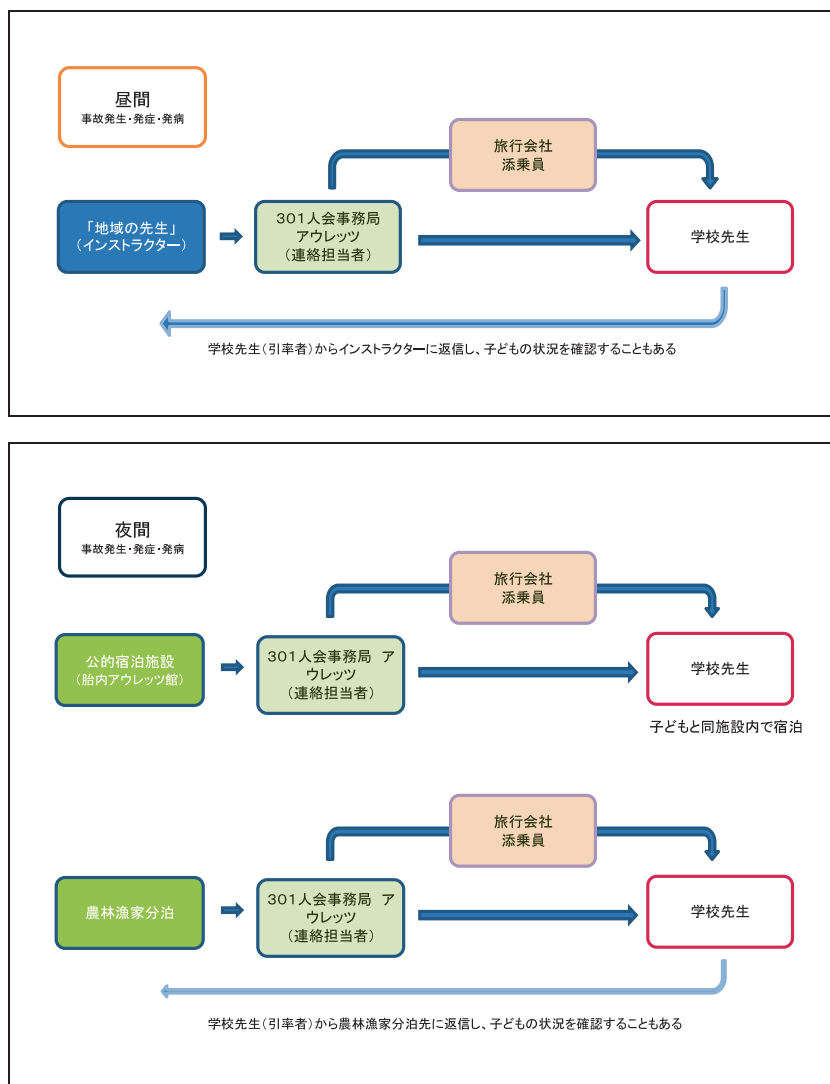
	名称等	区分
行政	胎内市	副市長
議会等	胎内市議会	議長
	黒川地区地域審議会	会長
教育関係団体	胎内市校長会	会長
	胎内市教育委員会	委員長
	新潟県少年自然の家	所長
旅行関係団体	胎内市観光協会	会長
福祉団体	(社)胎内市社会福祉協議会	会長
農業団体等	中条町農業協同組合	代表理事組合長
	黒川村農業協同組合	代表理事組合長
	胎内市農業委員会	会長
	胎内市青年農業士会	会長
	胎内市認定農業者会	4地区
	胎内市農村地域生活アドバイザー	会長
	胎内市中山間地域直接支払協定集落	16集落
	胎内市農地・水・環境保全向上対策協定地区	11地区
商業団体等	農産物直売所	5組織
	中条町商工会	会長
	黒川商工会	会長
	新潟製粉(株)	
	(株)新潟フルーツパーク	
	五十嵐こうじ屋	
NPO法人	工藤もちや	
	NPO法人ふるさと奥山の荘	理事長
地域づくり団体	胎内市住みよい郷土づくり協議会	総括
	人づくり会	会長
	胎内市地区区長会	4地区
健康づくり団体	胎内市食生活改善推進委員協議会	会長
	草花菜会	代表
環境づくり団体	四季を愛する会	会長
	イバトミヨ水芭蕉の会	会長
歴史文化団体	板額会	会長
	坂井神楽保存会	会長
	鍬江芸能保存会	会長
	中条・郷土玩具手作り研究会	会長
実践者	胎内森の案内人	
	たいない自然学校	代表
	チューリップ染め工房	
	(有)中条農産	
	(有)アグリ黒川	
	(農)百笑つぼあな	
	渡辺ベリーファーム	
	なりわいの匠	
農泊受入民家	83軒	

(2) 受入体制概略図

子ども農山漁村交流プロジェクト(ふるさと子ども夢学校)  
受入体制概略図



### (3) 緊急連絡体制の概略図



## 受入学校名

新潟県胎内市立中条小学校

## 当該小学校の受け入れの経過

### (1) 小学校との最初の接点 (きっかけ)

平成17年9月に胎内市が誕生し、平成20年6月にグリーン・ツーリズムを推進する本協議会が設立され、地域づくりの手法として本格的にグリーン・ツーリズムに取り組むことになった。

中でも「ふるさと体験学習」は、市内の豊富な教育資源を地元の子どもたちに活かせることから、協議会の主要事業に位置付け、学校と地域と緊密に連携するなかで進められている。また、ふるさと教育として、“ふるさとに学び、ふるさとを学び、ふるさとに子どもたちを活かし、子どもたちの中にふるさとを残す”ことを心がけながら、現在は3つの“きょういく”「教育・共育・郷育」をキーワードに推進している。

中条小学校は市内の一番大きい小学校である。

## (2) その後の小学校への対応

ふるさと体験として、平成20年度からスタートしているため、平成21年度は2年目の取り組みとなる。

平成21年度実施日については、平成20年12月に日程の仮決定を行い、平成21年4月に市内小学校を対象とした説明を行い、本決定となる。説明会では、当地域を十分に知ってもらうことはもちろんのこと、学校としてのねらいや考え方を整理していただくことが必要となっている。

体験プランの仮決定は、実施2ヶ月前までとし、体験学習のねらいやその狙い達成にふさわしい体験メニューを選択し、時系列に整理する。下見は、実施1ヶ月前までに確実にを行うこととしている。

実施後はアンケート調査を行い、10月には反省会を行っている。

### 小学校が当地を選定した理由

ふるさと体験学習として実施しているため、他地域への選択肢はなかった。

### 受入地域への効果

地域資源を活用→地域を経営→地域の持続性UPにつなげたいと考えている。

(社会的効果)

- ①昔は当たり前だった大人の役割を全うできる喜び
- ②子どもたちのモチベーションを内発的に醸成されるお手伝いができる喜び
- ③家庭内、集落内、地域内、学校など様々な結びつきにより前向きに変容
- ④自分の代で終わりという農家のモチベーション維持

(経済的効果)

- ①バブル崩壊後、利用減となっている市営施設の活用
- ②素晴らしいがどうPRしたらいいかわからない自然の活用
- ③多様な学べる施設や歴史文化の活用
- ④子どもたちが出て行った後の大きな家の活用
- ⑤交流ビジネスの起業

### 受け入れた小学校との関係維持への対応

- (1) 人とのふれあいが何よりの学びであることを伝える。
- (2) 学校の「思い」や「願い」をカタチにした体験プランを作成する。
- (3) 安心できる受入体制づくりとフィードバック。
- (4) 地域を知り、地域を経営する感覚を持ち合わせる。
- (5) 「初心を忘れない」気持ちを大切にしている。